
大吉しかないおみくじ

篠原

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大吉しかないおみくじ

【Nコード】

N9515D

【作者名】

篠原

【あらすじ】

今年で東大受験4年目。そんな不吉な数字にも負けず、俺はあのにつくき受験会場へ！しかし、その前に・・・

チャリン

パンパンッ

「（次こそ！東大うかりますよーにッ！！）」

今回で4回目の受験。田舎の親からは今年で最後にして帰って農業を手伝えと昨日電話があった。それはつまり俺に落ちろってことか。4という不吉な数字にも負けず、今回は小さいが有名な神社にもきてお願いをしにきたんだ。
絶対今年こそ受かってみせる！

「つても、受かるかなあ・・・俺・・・」

とりあえず、おみくじ引いてかえって勉強するか・・・
でもこういう時凶とか吉とか引いたらなんか泣きたくなるよな。

そう思いつつ、時期できに少々おかしいがおみくじを引きに行く。

100円入れて、受験用の運気をあまり使わないためにも一番上にあったものをぱっととる。

「（これで凶だったら母さんに土産でもかって帰ろう・・・）」

最初からあまり期待をせずに開けてみたが

「これって・・・大吉！？」

期待が少なかった分、少々嬉しかったりする。

じゃあ、とりあえずコレは・・・

「えっと、確かこれって木に結ぶんだっけな・・・」

とボソツと呟いたつもりだったんだが・・・

「それ、結ばずそのまま持ち帰ってはどうです？」

「のわぁ!!?」

び、びつくりした・・・なんだこの神主。昔は兵隊でもやってたのか・・・?

気配無く近づいてきたのはこの神主だった。

なにかと思うと、俺が持っているおみくじをさすともう一度

「それ、結ばず持ち帰ってはどうです？」

さつきと同じことをいった。いや、別に老人でもなくまだピチピチ20代だから聞こえてますって。

「え・・・なんかご利益とかってあるんですか？」

とりあえずそこまで言うのだから理由があるはず。一応きいといったほうがいいだろうな。

「いえ?でも木に結んでしまうより、自分で持ち帰ったほうが嬉しくないですか？」

理由そんだけかよ!!?

それでも二十歳過ぎた野郎が大吉おみくじ引いて喜んで持ち帰るほ

ど幼心は持ち合わせていないのだが・・・

「え、でもこーゆうのって木に結ぶといいことあるっていいですよ
ね？」

「まあ、そういう噂もありますね」

伝統、噂扱い。コイツホント神主か？

ハツまさか、コイツの子ども東大うけるってんで俺を蹴落とす算段
か？

とりあえず今は持ち帰って後で結びに来るか・・・

「わかりました。親切にありがとうございます。では、俺は勉強が
あるので」

「東大受験、頑張ってくださいね」

やっぱりな。その手はお見通しだったの！

しかし、そういつて帰った後不思議なことが立て続けに起こった。
今まで部屋をひっくり返す勢いでさがしたはずなのに見つからな
かったシャーペンが机の引き出しから見つかったり、なくしたと思っ
ていた必勝鉢巻がふとんの下にあったり、勉強が異様にはかどった
り・・・

そんなことが立て続けにあるもんで、俺はあのおみくじを結ぼうに
も結びにいかず、そのまま受験当日、受験会場まで持っていた。

数日後。

ついに結果発表の日

今もクセか本能かあのおみくじを持ってきたが・・・

とりあえず群がる人を掻き分け自分の番号を探す。

中には見終わって泣いてかえるものも居れば、喜んで抱き合っているやつもいる。クソッ蹴飛ばしてやるうか・・・

そう思いつつも一生懸命自分の番号を探す。

あつた

もう一度さがしてみるが、やっぱりある。何度も確認してみる。やっぱりある！！！！

「よっしゃあ！！合格！！！！！！」

意気揚々と帰り、田舎の母さん父さんに電話して落ち着いたあと、このおみくじを引いた神社に自然に足が向かった。

何故ココに来たかわからずぼーっと鳥居をみているとまた

「受かりました？東大」

「のわあ！！？」

気配無く神主のオッサンが近づいてきた。

俺も非常識な人間ではない。

「あの、アドバイスありがとうございます。おかげでわかりました」

「ああ、それはよかった」

「これ持って帰ってからたくさんいいことがあつたんですよ。あの、コレってなんか意味あつたりするんじゃないんですか？やっぱり」

あれはどう考えても奇跡にしては出来すぎだと思ったから聞いてみ

たんだが・・・

神主は笑ったまま俺が引いたおみくじ箱を持つてくる

「前も言いましたが、大吉は持ち帰ったほうが嬉しいじゃないですか。それだけです。それに・・・」
「？」

そういつて神主は俺におみくじ箱を渡す。なんだ。持って帰れてか？

「これ、大吉しかはいつてませんから、運試しとかできませんし」

・・・・・・はい？

「え、じゃ、もしかしてどれをとつても・・・」

「大吉しかだせませんよ？むしろこの中から中吉とか出したほうが運がいいかもしれませんね」

いや、そこ爆笑するとこ違うくないですか？

結局、おれは一人ではしゃいでただけつつつか・・・恥かしッ！！！！

とりあえず退散！！

しよつときびすを返し、階段を下りようとしたとこでふつと思った。

「俺・・・ここで東大受けるとは一言も言つてない・・・」

なぜあの神主のおっさんは俺が東大うけることを知つていた・・・？

そう思つてどういふことか聞こうと思つて振り返つたら、その先にはさっき見ていた寺とはちよつと違う寺があつた。

奥にはいつて神主をみつけて訪ねても、さつきと打って変ってよぼよぼ爺さんだし。

おみくじひいたら中吉だった。

数日後、俺と近くに住んでいるという先輩にあつたのでこの話をしてみると、その先輩もあつたことがあるらしい。

優しい顔をして、おみくじは絶対持つて帰れという謎の神主と・

結局先輩もなぜかわからないままその謎の神主は消えていたらしい。しかし、どうしても謎が残るのがいやで、他にもあつたという人物をさがすと、必ずその神主を見た人はその年受験に合格するらしい。

ますます謎だった。けど、

俺は非常識な人間ではない。本当は直接本人にあつていうのが礼儀だが、みつからないものはしょうがない。今度あつたらもう一度言うでしょう

「俺の前に出てきてくれて、」

ありがとう

（後書き）

本人的には前向きにいきたかったのですが、なんか変な感じに・・・
ていうかすこしミステリーチックになったのは気にしないであげて
ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9515d/>

大吉しかないおみくじ

2010年10月16日16時38分発行